

# きたかみ

学校教育目標 未来を拓き、自ら学び、行動する、心豊かでたくましい生徒の育成

〒986-0201 石巻市北上町十三浜字小田 93 番地 1 TEL 67-2057 FAX 67-2004

令和 6 年 10 月 3 日 文責：鈴木国也

北上中ホームページのQRコードです ⇄

北上中学校 67-2057

夜間、休日、日直を置かない日 070-1306-2292



## <全国学力学習状況調査（3年生）の結果から見えてくること>

全国平均との差について

- ① -7より下の範囲 → 「大いに低い傾向」
- ② -7~-3の範囲 → 「やや低い傾向」
- ③ -3~+3の範囲 → 「ほぼ同じ傾向」
- ④ +3~+7の範囲 → 「やや高い傾向」
- ⑤ +7より上の範囲 → 「大いに上回る傾向」

	昨年度 R5 の結果	今年度 R6 の結果
国 語	全国平均正答率 70% 北上中→ やや低い傾向	全国平均正答率 58% 北上中→ やや高い傾向
数 学	全国平均正答率 51% 北上中→ やや低い傾向	全国平均生徒い率 53% 北上中→ やや高い傾向

今年度の3年生は、全国の平均を上回り、学習面において成果を發揮していることが分かります。

この調査では、国語と数学の他に、生徒質問の内容があり、普段の学習に対する取り組み状況や意識調査の結果も提示されます。

本校では、夏休み中に研修会を開き、教師全員でこの結果を分析しました。国語と数学の教師だけではなく、全ての教科担当で、生徒の傾向を知り、今後の授業に生かすために、実施しました。

単に、平均点より上だっただけではなく、3年生はどんな学習への意識なのか、家庭学習の状況はどうかなどを明確にし、それを1・2年生にどのように生かしていくのかも考えました。また、3年生はさらに向上を図っていくためには、どんな授業をしていくことが大切なのか、意見を出し合い、分析しました。その結果を保護者にも提示し、学校と家庭とが連携し合って、子どもたちの学力を支え、よりよい学習環境を整備していきたいと考えます。

### 1 R6年度の3年生の特徴

生徒質問の昨年度と今年度を比較する中で、はっきりと今年度の特徴が表れたのは、「自分に合った学習方法」を実践しているという項目です。この項目において、R5年度は、全国平均以下だったのに対し、R6年度は、全国平均を大きく上回りました。これは、どのようなことなのでしょう？

私自身が、3年生の学習状況を見ていても、生徒個々が自分の課題をしっかりと理解

し、それを克服するために学習に取り組んでいる様子が見られます。場合によっては休み時間も、学習に取り組んでいます。

つまり、学習方法が自分に合っているということになります。

→<本校での取り組み>

教師が学習内容を指導するだけでなく、その生徒に合った学習方法であるのか、または様々な学習方法を紹介し、生徒がより自分に合った学習方法を選択できるようにする。

→<ご家庭にお願いしたいこと>

お子さんが、机に向かって学習しているから安心・・・ということではなく、その学習内容が、お子さんに合っているものなのか

例えば、もっと応用力をつけなければならないのに、基本的な問題だけに取り組んでいたり、その逆もあります。

そのときに、学習方法について話題にさせていただければと思います。

## 2 本校生徒の課題 新聞の活用

① 本や新聞に慣れ親しんでいない傾向があります。

② そのために活字や漢字にその弱さが表れています。また、ある文章に対して自分の考えをまとめることも難しいと感じています。

→<本校での取り組み>

新聞を教育に取り込んでいく NIE の活動をしています。数社の新聞が毎日配達され、生徒が新聞を見れる環境を整えています。しかし、ほとんどの生徒が新聞を読む意識が少ない状況です。そこで、文章力の読解力の向上のために、新聞を積極的に活用していきたいと考えました。

先日は、国語の授業である新聞記事を取り上げ、全校生徒で朝の会に他の生徒が書いた文に対する感想を記入する活動に取り組みました。

→<ご家庭にお願いしたいこと>

お子さんに、多くの活字に触れる環境の整備をお願いします。例えば、本を身近な場所に置くとか、新聞の話題をもつなどです。また、漢字を苦手にする生徒が多いです。家庭学習として漢字の練習は、取り組みやすい学習の一つですので、声かけをお願いします。

## 3 問題文の理解、イメージ化

① 数学において、問題文の意味が理解できず、答えられない。

② 問題文の意味が分かっていたら、その問題は解くことが可能である。

→<本校での取り組み>

問題文が長い終章になったり、複雑になったりすると、問題が理解できずに解くことができない傾向にあります。よって、長い文書の問題を読み、それに対して、どんなことが書かれているのか、絵や図や表にするなどして表現してみる訓練が必要となります。

授業をしていると・・・問題が解けずにいる生徒に対して、問題文の意味を説明すると「あっ そいうこと！」とって解き始めるメースが多いです。

これは、問題の意味が分かればその問題は解くことができるということです。

→<ご家庭にお願いしたいこと>

読解的なことなので、2で述べたことと同じ面もありますが、長い文を読んで、どんなことが書かれていたのかを要約したり、ややこしい問題文を読んで、それを図にする等、例えば 「Aさんが学校から郵便局まで、時速20kmの速さで～」

時間	1	2	3	4			
距離	20	40	60	80			

これだけのことで、イメージしやすくなり、問題に向かうことができるようになります。